

生き物探検隊，出発！

時 期 いつでも

時 間 1～2時間

場 所 校庭，公園，野原，林など

- 自分たちが住んでいる家や学校の近くには，どんな生き物がいるのかを考える。
- 生き物探検に出かけて，生き物を探す。
- 見つけた生き物を，友達と紹介し合う。

ねらい

- 親しむ
- ・自分たちが住んでいる地域にどんな生き物がいるのかを知る。
 - ・身近な自然に積極的に触れようとする態度を育てる。

活動展開例 第3学年 理科「身近な自然のかんさつ」

準備物	・虫かご ・ポリ袋 ・ポリカップ ・飼育かご ・えんぴつ ・消しゴム ・ワークシート ・バインダー		
	時間	活動内容	留意点
展 開	10分	○事前に行った学校や家の周辺の生き物調査の結果をもとに学校や家のまわりにはどんな生き物がいるのかを考え発表し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を通して，児童の「生き物」の捉えを，昆虫や動物に留まらず，草花や樹木にまで広げる。 ・多くの生き物がいることに気付くだけでなく，もっとたくさんの生き物を見つけようとする意欲を高めるようにする。 ・探検に出かける前に，活動範囲や生き物の扱い方など，探検の約束を十分に確認する。
	20～60分	○生き物探検に出かける。	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物を見つけた児童に「どんなところで見つけたのか」などと問うことで，その生き物が生息している場所の環境にも目を向けていけるようにする。 ・虫眼鏡やカメラなどの活用も必要に応じて行うとよいが，物を通しての観察に終始することのないよう助言する。 ・採集した生き物を，実物を見せながら紹介し合えるよう，虫かごや容器などを携行させる。
	15～20分	○見つけた生き物を紹介し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・見つけた生き物を入れられる容器を用意しておき，その後の飼育・栽培活動につなげるようにする。

中学年



活用ガイド

○ワンポイントアドバイス

- ・探検の範囲を広範囲にし、いろいろな環境の生き物を見つける活動も考えられるが、活動範囲を絞り込み、その中で生き物を探させ、その数（種類）や環境とのつながりを考えていくなどすると、ポイントを絞った話合いが可能になる。

○活動の様子



石の下に虫が
いっぱいいたよね。
まさかこんなところには
いないよね。うわあ。

何だか小さな物が
動いているね。何だろう。
アリが動いている様子とは
違うみたいだよ。



○実施した効果(活動を振り返って)

- ・3年生の理科で実施してみたが、1,2年生の生活科の活動を思い出しながら夢中になって取り組んでいた。学校という限られた環境ではあったが、「探検」「見つける」という活動を行うことで多くの生き物を目にすることができ、驚きも大きかったようだ。
- ・見つけた生き物を互いに見せ合って紹介していく中で、自然に「みんなで育ててみたい」という思いが生まれてきて、その後の飼育・栽培活動へもつなげていくことができた。

○発展

- ・各自で見つけた虫を詳しく観察する活動を行い、観察結果を相互に比較していくことで「虫の体のつくり」の学習につなげることができる（体のつくりの規則性が見えてくることで、昆虫の体のつくりに着目でき、その後の自然観察での観察の目を育てることができる。）。

中学年



い ものはっけん
生き物発見カード

月	日()	天気()	名前	
	空気の温度	°C		

○生き物を見つけたところや、その場所や生き物のようすをかきましょう。
(絵やことばでくわしくかきましょう。)

見つけた
場所は？

場所の
ようすは？

生き物の
ようすは？

気づいたこと	
--------	--

中学年

